

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋シミズ富国生命ビル	階数	地上16F
建設地	愛知県名古屋市中区丸の内	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,845 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,940 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	-
敷地面積	4,821 m ²	作成者	-
建築面積	3,318 m ²	確認日	-
延床面積	47,963 m ²	確認者	-



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	54%
③上記+②以外の	54%
④上記+	54%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.8

3 設計上の配慮事項		
総合 『快適性の向上と環境負荷低減を両立する環境配慮オフィスの実現』 外周部の柱梁を完全に外部化することで、日射負荷を低減するとともに、室内の快適性向上や、事務室空間の無柱化による利便性向上に寄与している。		その他 -
Q1 室内環境 Low-Eガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能を上げているなど、温熱環境に配慮している。	Q2 サービス性能 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。	Q3 室外環境(敷地内) ピロティを設けることにより空間提供による地域貢献に配慮し、屋上にテラスを設け豊かな中間領域の形成に配慮している。
LR1 エネルギー LED照明設備を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ノンフロン断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。	LR3 敷地外環境 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
名古屋シミズ富国生命ビル

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									4.0
Q1 室内環境					0.40		-		3.8
1 音環境				4.6	0.15	-	-		4.6
1.1 室内騒音レベル		[騒音レベル] ≤ 40		5.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				4.6	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		T-2以上		5.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能		事務室でDr値=40		4.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-		
1.3 吸音		事務室で、床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音材		4.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				3.7	0.35	-	-		3.7
2.1 室温制御				3.2	0.50	-	-		
1 室温		-		3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		外壁断熱材、窓にLow-Eガラスの採用等		4.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		-		3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		-		3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		床吹出し方式を採用		5.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.5	0.25	-	-		3.5
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-		
1 昼光率		-		1.0	0.60	-	-		
2 方位別開口		-		-	-	-	-		
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-		
1 昼光制御		ブラインドと庇によりグレアを制御		4.0	1.00	-	-		
3.3 照度		事務室で平均照度500lx以上		4.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		自動制御ができる		5.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.7	0.25	-	-		3.7
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材かつVOC対策品を全面的に使用		5.0	1.00	-	-		
4.2 換気				2.0	0.30	-	-		
1 換気量		事務室で30㎡/人以上		4.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		-		1.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		-		1.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		-		1.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		喫煙室は天井裏まで区画し負圧に保つなど十分な対策を実施		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		4.0
1 機能性				3.8	0.40	-	-		3.8
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		9㎡以上/人		4.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応		-		2.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画		-		3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		事務室の天井高:2.9m以上		5.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+無人店舗		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画		建物全体のコンセプトや機能が明確であり、内装計画に反映している		4.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		トイレは清掃しやすい内装材、外部の鉄部に亜鉛メッキ処理等		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		建物の維持管理に適切な設備を設置している		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				4.4	0.30	-	-		4.4
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		1.5倍の耐震性能		5.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		免震装置を導入		5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:カーペット20年、壁:塗装20年、天井:ボード30年		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		野外露出ダクトにガルバリウム鋼板を採用		5.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給排水、空調冷媒管の全てC以上を採用		4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				4.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		換気、空調設備の重要度の高い系統を優先的に運転することが可能な計画など		5.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		排水系統の細分化、緊急排水槽の設置等		5.0	0.20	-	-		
3 電気設備		非常用発電設備の設置、無停電電源設備の設置等		5.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA相当		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		光・メタルと通信手段を多様化、電話の引き込み2ルート化等		5.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			4.1	0.30	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	基準階階高:3.9m以上		5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	0.1≤[壁長さ比率]<0.3		4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり	事務室床5000N/m ²		4.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.8	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	システムトイレを採用		5.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	バスダクト、ケーブルラックにより仕上材を痛めずに更新・修繕		5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	ケーブルラック、配管内配線により仕上材を痛めずに更新・修繕		5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.4
1 生物環境の保全と創出	敷地の立地特性に基づき、敷地内の生物環境の保全と創出に関わる計画としている		4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	屋上に目隠しパネルを設置し、周辺のまちなみに配慮している等		5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	ピロティを設けることにより、日陰、雨宿り等の空間を提供等		4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	人が出入りできる屋上と外壁面を緑化、燃焼設備を不採用等		4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.90		4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.41		5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	運用管理体制が組織化され、責任者が指名されている		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水	自動水栓、節水コマや節水型便器を採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用をしている		4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減	免震構造、プレストレスト鉄筋コンクリート、定着金物等を採用		5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	塩ビシート:床、ボード:天井、カーペット:床		5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	内装が乾式工法で分別性に配慮、OAフロア採用		5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用	化学物質汚染排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別を4品目用いている		5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=10以下の断熱材を使用		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮	消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮		4.8	0.33	-	-	4.8
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止	燃焼機器を不採用		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	敷地内に駐車場、荷捌き用車両スペースを確保するなど周辺道路の渋滞緩和に配慮		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	0.50	-	-	
2 振動	-		3.0	0.50	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	風害に対する要請無し		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	
3 日照障害の抑制	日影規制無し		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「公害対策ガイドライン」チェックリストの一部を満たす、広告物照明はない		4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	3.0	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0	-	○	○	-	-	○	-	-	○	○	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0	-	-	○	-	○	-	-	○	○	○	○	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	3.0	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	4.0	4.0	-	○	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	4.0	3.0	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	4.0	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	11.0	-	2.0	-	3.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	5.0	-	2.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	4.0	-	-	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	13.0	-	-	-	2.0	3.0	1.0	2.0	1.0	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	6.0	-	-	-	6.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0	-	1.0	-	-	-	3.0	2.0	1.0	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.45、0.89 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム 1.8、2.9 屋根 - 外壁 0.8 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 1.0%未満
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 -
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 9.6㎡/人 病床 - /床 シングル - ツイン -
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 60.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.9 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 1.9% レストスペース -
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 - 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 15 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 10 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 4.45 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 15.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 5000 N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 91% 建物緑化指数 10%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 31% 水平投影面積率 23% 地表面対策面積率 39% 舗装面積率 25%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.90 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 - MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -
3 設備システムの高効率化	BEI/BEI _m 非住宅 0.41 住宅 - 太陽光 - 太陽熱等 - 蓄電池 -
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 -
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 塩ビシート、ボード自給体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 -
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 2090
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 148% 隣棟間隔指標Rw 0.12 地表面対策面積率 71.0% 屋根対策面積率 23.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb 5.086㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 76.5 m 基準高さHb 44.82 m 緑地 1,122㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡